

山陽小野田市立山口東京理科大学 地域連携・社会貢献レポート

2017 年 4 月～2018 年 3 月



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University

地域連携・社会貢献レポートの刊行にあたって

山陽小野田市立山口東京理科大学

学長 森田 廣

大学の存在意義は何か。もちろん、揺るぎない柱としての大学の存在意義は人材育成でありましょう。入学した学生の勉学意欲に応え、学生を取り巻く周囲の期待も満たすことでしょう。しかし、冒頭の問いへの解答の難しさの一つの理由は、ひと昔前に比べ、大学に対する価値観がかなり変化してきたことにあります。かつての、教育研究の場、幅広い知識と高度の専門性、長期の課題に挑戦するところといった印象が揺らぎ、短・中期的な社会貢献、研究成果の社会への確実な還元といったことが課せられるようになってきている事実があります。加えて新たな取り組みとして、社会・地域への積極的なアプローチ、地域産業の創出・振興までも期待されているのです。

こうした中、本学の目指すところの拠り所は理科大の建学精神「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」、いわゆる実学主義にあります。これを受けた本学の理念・目標等はホームページや大学案内に明示しており、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに反映しています。さらに、「SOCU Way（本学の進むべき道）」として明瞭に掲げてあり、“教育と研究の成果としての社会・地域貢献と人材育成”を本学の行動基準としているのです。その結果として、本学が永年、標榜してきた育成すべき人材が「地域産業界や地域社会で活躍できる人材」となったのです。本学は既に5000人近いこうした人材を社会に送り出して来ましたが、その教育と研究の過程で多くの地域関連活動、社会貢献活動を行い、成果を上げて参りました。今回、その一端を本レポートにてご紹介させていただきますことは本学関係者一同の喜びであります。まさに前述した社会や時代の要請を先取りしてきた大学ということが出来ます。

さらに、本学の創立を振り返りましても、地元の県や市の自治体と“ものづくり”を中心とした産業界、東京理科大学の三位一体の想いが形となって、1987年に公私協力方式でスタートしております。当初の工学系短大から4年制大学に移行したのが1995年、さらに公立化したのが2016年です。大学の設立からして本学は地域との強い繋がりがあり、教育、研究面での地元との連携を礎として参りました。昨今、文部科学省が盛んに主導しているCOC、即ち、大学は地域の知の拠点であるべきという考え方も、本学においては既に誕生時から背中に背負ってきたものです。これからもその思いは微塵も変わることなく、本学はまさしく、地域立大学として未来に向かって前進してまいります。

本学の地域連携・社会貢献の取り組み

山陽小野田市立山口東京理科大学は、地方都市における落ち着いた教育環境のもと、学校法人東京理科大学との姉妹校関係を維持強化しつつ、薬工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」の育成に貢献することを目的としています。

また、教育及び研究とともに、地域創生における「知のローカル・ハブ」という役割を果たし、地域社会と地域産業の振興・発展に寄与する社会貢献機能を備えた個性ある大学となることを基本姿勢としています。

本学の地域連携・社会貢献の取り組みは、設立母体である山陽小野田市から提示された中期目標のうち「地域社会との連携、地域貢献に関する目標」の達成に向け、本学が2016年4月1日から2022年3月31日までの6年間に実施する「地域社会との連携、地域貢献に関する中期計画」に基づいて行われています。

本レポートでは、本学が中期計画に基づき、2017年度に行いました地域連携・社会貢献の取り組みの一部をご紹介します。

<地域社会との連携、地域貢献に関する中期計画>

1. 地域コミュニティの中核的存在としての拠点化

- (1) 地域連携センターの生涯学習部門及び地域連携室を中心に地域社会との連携や地域貢献活動を推進強化します。
- (2) 講演会、研修会、教育・教養講座及び中高教員向け教育等を計画、実施します。
- (3) 地域の技術力向上の支援（技術相談、企業教育支援、専門家派遣、人材の供給等）を行います。
- (4) 学生向けの地域教育の推進及び地域活動の支援（大学施設・設備の提供、教員知識の活用等）を行います。
- (5) 地元小中高への出前授業や実験体験、市民への大学開放を実施します。

2. 産業界との連携

- (1) 大学の技術シーズと企業の技術ニーズのマッチングを図り、支援する仕組みを構築します。
- (2) 研究連携、シンポジウム、セミナー及び研究成果の活用促進等大学の外に向けた活動を活性化します。

3. 政策形成等に貢献するシンクタンク機能の発揮

- (1) 地域の課題に対して積極的に市や商工会議所の委員会、審議会に参加します。

4. 学生の地元定着

- (1) 入学者に占める県内学生割合の向上
入学者選抜の適正な実施に留意しつつ、入学者に占める県内出身者の割合を高めていきます。
- (2) 県内就職割合の向上
大学を卒業し、県内に就職する者の割合を高めていきます。

目 次

地域連携・社会貢献レポートの刊行にあたって	1
本学の地域連携・地域貢献の取り組み	2
1. 市民への貢献	6
(1) 特別講演会	6
(2) シンポジウム	6
(3) 大学開放授業	7
(4) サイエンスカフェ	7
(5) かがく博覧会	8
(6) 大学施設の開放	9
(7) ミュージアム・ライブラリー特別展	9
(8) ビブリオバトル	10
2. 小学校・中学校への貢献	11
(1) ほんものの科学体験講座	11
(2) 小学生プログラミング教室	12
(3) ジュニア科学教室	12
(4) スクールボランティア	13
(5) 小学生と留学生との異文化・国際交流会	13
(6) 小学生と中学生のキャリア学習「厚狭カタリ場」	13
(7) ドローン航空写真撮影・ドローン講義	14
(8) 市内小・中学校児童生徒科学研究発表会講師	15
(9) 夏休み科学作品に対する学長賞の授与	15
3. 高等学校への貢献	16
(1) 理科教員のためのリカレントセミナー	16
(2) 教員免許状更新講習	16
(3) 深い学びにつなげる理科研修講座	17
(4) 山口県高教研理科部会長南地区研究協議会	17
(5) 高校生体験学習・出前講義	18
4. 企業への貢献	20
(1) 研究室公開	20
(2) 技術相談会	20
(3) 研究機器の開放	21
(4) 研究シーズ集の発刊	21
(5) 商工会議所会報による大学技術紹介	21
(6) やまぐち総合ビジネスメッセ	22
(7) 商工会議所での講演	22
(8) 小野田青年会議所での講演	23
5. 地域団体への貢献	24
(1) 住吉まつりでの「龍舞」披露	24
(2) 山口化学展「おもしろワクワク化学の世界」	24

(3) 社会福祉協議会に対する大学説明会	25
(4) 民生児童委員協議会に対する大学見学会	26
(5) 連合女性会に対する大学見学会	26
(6) 日本分析化学会中国四国支部講演会	27
(7) りゅうみんネット懇談会	27
(8) 理科大生を支援する店	28
(9) 山口県薬剤師会未来の薬剤師セミナー	28
(10) 山口県立美術館キャンパスメンバーズ	29
6. 学生による地域貢献	30
(1) 科学部 HMS による「おもしろ科学大実験」	30
(2) 科学部 HMS による「ロケット打ち上げ大会」	30
(3) 理科大音楽部と市民のジョイントコンサート	31
(4) アプリ開発研究部「山陽小野田市クイズアプリ」の開発	31
(5) All Tea Garden 部による「理科大かたつむりカフェ」	32
(6) フィルハーモニー楽団・軽音楽部による山口労災病院コンサート	32
(7) 理科大警備隊による警察防犯ボランティア活動	33
(8) 理科大警備隊「うそ電話詐欺防止の寸劇」	33
(9) 竜王祭	34
(10) クリーンキャンペーン	35
7. 学生の研究成果による貢献	36
(1) 地域 GIS 活動	36
(2) 理科大生とのマッピングパーティー	36
(3) デマンド型交通システムのシミュレーター開発	37
8. 地域の知を教育に生かす取り組み	38
(1) 地域卒業研究	38
(2) リーダーシップ論	38
(3) 地域技術学	39
(4) 地域産業論	39
(5) 地域社会学	39
(6) 県内企業インターンシップ	40
(7) 学生ボランティア活動	40
(8) 市内企業見学ツアー	40
(9) リーダースキャンピング（ノートテイクに関する勉強会）	41
(10) 地域イノベーション戦略支援プログラム	41
(11) 地域の環境に関する研究活動	42
9. 地方公共団体への貢献	43
(1) 未病に関する官学勉強会	43
(2) 薬学行政に関する官学勉強会	43
(3) 山陽小野田市中心図書館フェスティバル	44
(4) うべの里アートフェスタ	44
(5) 市立図書館との相互利用	44
(6) 電気自動車 EV 利活用モニター事業プロジェクト	45
(7) 選挙啓発活動	45

(8) 市議会議員対象の大学説明会	45
(9) 各種委員の応嘱（行政関係）	46
10. 金融機関との連携活動	49
11. 警察署・消防署との連携	50
(1) 交通安全ガイダンス	50
(2) 交通安全講習会・薬物防止講習会	50
(3) 防災訓練	51
12. その他の取り組み	52
(1) 各種委員の応嘱（行政関係以外）	52
(2) 非常勤講師・役員の応嘱（行政関係以外）	54
13. 地域からの入学	55
(1) 地域推薦入試	55
(2) 入学者に占める山口県出身者	55
(3) 入学者の市内下宿状況	55
14. 地域への人材輩出	56
(1) 就職状況	56

1. 市民への貢献

(1) 特別講演会

「患部をピンポイント攻撃する未来の『くすり』」

日 時：平成 29 年 10 月 14 日（150 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学 池北雅彦 理事長

内 容：薬学博士で薬剤師である池北雅彦理事長から「患部をピンポイント攻撃する未来の『くすり』」と題して薬の種類や役割について紹介し、続いて薬が効くメカニズムや副作用について実例を挙げて紹介しました。また、ノーベル医学・生理学賞を受賞された大村智先生の功績も紹介しつつ、近年開発された、がん細胞だけを標的に攻撃する分子標的薬やオーダーメイド医療など、今後の薬の可能性について解説しました。



(2) シンポジウム

「薬学部シンポジウム ～薬学部が街の未来を変える～」

日 時：平成 29 年 12 月 2 日（120 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

パネリスト：藤田剛二 山陽小野田市長、中原靖明 山口県薬剤師会会長

池北雅彦 理事長、森田廣 学長、武田健 薬学部設置準備室長

コーディネーター：脇和也 宇部日報社代表取締役社長

内 容：平成 30 年 4 月に本学に新設される薬学部の教育研究について紹介し、多面的な視点から薬学部の魅力や可能性に迫り、街がどのように変わっていくのか市民の皆様と一緒に考える機会をもちました。会場の参加者から多くの意見を頂戴し、地元企業と産学連携活性化や、若者人口増加へ期待の声が挙げられるなど、活発な意見交換が行われ議論を深めました。



(3) 大学開放授業

日 時：平成 29 年 9 月 25 日～平成 30 年 2 月 9 日（5 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：大学の学生が受けている授業の一部を地域の皆様へ公開しました。平成 30 年 2 月 8 日には、平成 29 年度大学開放授業の修了証授与式を開催。学長挨拶の後に科目を担当した教員から受講生に修了証が授与されました。受講生からは「若い学生と一緒に大学の授業を聴講することができ、大変刺激を受けました。」「来年度も、ぜひ受講したいです。」との声が聞かれました。



(4) サイエンスカフェ

市民を対象に、お茶を飲みながら本学の教員が身近な科学や技術を、毎回異なるテーマで紹介しました。平成 29 年度の開催状況は次のとおりです。

第 1 回	平成 29 年 5 月 27 日（16 名） 「有機化学への招待 ―有機化学の特徴と考え方―」 工学部応用化学科 北條信 教授
第 2 回	平成 29 年 7 月 29 日（15 名） 「渋滞の科学 エコな運転？エゴな運転？」 工学部電気工学科 穂本光弘 講師
第 3 回	平成 29 年 10 月 14 日（9 名） 「光の活用と化学」 工学部応用化学科 星肇 教授

第4回	平成29年12月2日（15名） 「宇宙のはじまり」 共通教育センター 吉村高男 教授
第5回	平成30年2月3日（13名） 「オゾンはわる者か？」 共通教育センター 金田和博 教授



(5) かがく博覧会

日 時：平成29年9月23日、24日（3,780名）

場 所：おのだサンパーク

内 容：かがく博覧会は、山陽小野田市と本学が共同で開催しているもので、市内の小・中学生の科学作品の展示や、市内の高校、大学、企業による実験ブースなどを出展。科学を学ぶ楽しさや驚き、感動を体験できるイベントです。本学から9つのブースを出展し、それぞれのブースで個性あふれる実験等が行われました。

実験テーマ	講師
iPhoneで化学しよう	工学部応用化学科 白石幸英 教授
光を分けよう！曲げよう	工学部電気工学科 高頭孝毅 教授
プログラミング体験	工学部電気工学科 井上啓 教授
スライムを作ろう	工学部応用化学科 白石幸英 教授
金属の曲げ実験	工学部機械工学科 大塚章正 講師
低温の世界を体験してみよう	共通教育センター 金田和博 教授 共通教育センター 浅野比 講師
小型レーシングカーに乗ってみよう	工学部機械工学科 貴島孝雄 教授
宙に浮かぶシャボン玉	科学部 HMS (Hand Made Science)



(6) 大学施設の開放

体育館、テニスコート、グラウンドなどのスポーツ施設と、教室を地域の皆様に開放しています。学外者も安全に施設を利用できるように、テニスコートとグラウンドの新設工事を行うため、平成 29 年度は体育館と教室を地域に開放しました。平成 29 年度に施設の利用状況は次のとおりです。

施設	利用件数
体育館	5 件
教 室	4 件

(7) ミュージアム・ライブラリー特別展

山口県大学 ML（ミュージアム・ライブラリー）連携事業は、平成 23 年度に産声を上げた、全国的にも稀な広域大学連携事業です。平成 29 年度は「やまぐちの大学 ― University College Yamaguchi ―」をテーマに、山口県立山口博物館にて集合展示を行い、各大学・各館所蔵の貴重な学術資料や研究成果を公開しました。

本学の展示コーナーでは、山陽小野田市立山口東京理科大学の前身である、物理学校の創始者のうちのひとり、中村精男（山口県萩出身）に関する資料や、地元の企業と協力しながら技術開発をしている液晶研究所のラビングマシンのパネル等を展示しました。展示物を通して大学の歴史を振り返り、“やまぐち”と大学の繋がりについて紹介しました。

日 時：平成 29 年 11 月 25 日～12 月 24 日（会場来訪者 613 名）

場 所：山口県立山口博物館

展示品：セラミックスターボチャージャー

技術者用計算尺

薬学部校舎模型

「東京の地中温度」パネル

「六分儀を用ひすして経緯度を測定する法」パネル

「液晶配向ラビングマシン」パネル

「山陽小野田市立山口東京理科大学年表」パネル

「日本で最初に成功した液晶表示」パネル

総 括：図書館長 橋本慎二 教授



(8) ビブリオバトル

日 時：平成 29 年 9 月 30 日（15 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学図書館

内 容：ビブリオバトルでは、参戦者が「読んで面白いと思った本」について発表し、観戦者がどの本を一番読みたくなったかを基準に投票して優勝本を決めるものです。平成 29 年度は、市民と学生の総勢 15 名が参加しました。参戦者が発表した後は質疑応答が活発に行われ、それぞれの本の魅力を掘り下げていきました。本大会の優勝本に輝いたのは「君と夏が、鉄塔の上」でした。ミステリー小説や青春小説、ノンフィクション作品など幅広い分野の本が紹介され、大変な盛り上がりとなりました。

総 括：図書館長 橋本慎二 教授



2. 小学校・中学校への貢献

(1) ほんものの科学体験講座

山陽小野田市教育委員会と連携して行っている「ほんものの科学体験講座」は、本学がもつ人的・物的資源を活用し、小学校・中学校では普段実施できない科学実験を体験できる貴重な機会を提供するものです。受講対象者は、小学校高学年以上（５・６年生）、中学校全学年としており、体験を希望する小・中学校が、希望する講座を選択し受講します。大学から教員と学生が小・中学校を訪問しています。



開催日	学校名	講座名	講師	受講者数
H29. 6. 21	高千帆中学校	斜面の実験を体験！	共通教育センター 吉村高男 教授	84 人
H29. 6. 21	高千帆中学校	斜面の実験を体験！	共通教育センター 吉村高男 教授	58 人
H29. 6. 27	津布田小学校	低温の世界	共通教育センター 金田和博 教授	16 人
H29. 8. 1	竜王中学校	飛行機雲を見てみよう	工学部機械工学科 結城和久 教授	16 人
H29. 8. 1	竜王中学校	ホタルの光を作ってみよう	工学部応用化学科 白石幸英 教授	21 人
H29. 8. 1	竜王中学校	低温の世界	共通教育センター 浅野比 講師	24 人
H29. 9. 7	高千帆小学校	低温の世界	共通教育センター 金田和博 教授	93 人
H29. 11. 20	厚狭小学校	ドライアイス（二酸化炭素）の性質	工学部応用化学科 白石幸英 教授	52 人
H29. 11. 21	厚狭小学校	ドライアイス（二酸化炭素）の性質	工学部応用化学科 岩館寛大 准教授	54 人
H29. 11. 21	埴生小学校	斜面の実験を体験！	共通教育センター 吉村高男 教授	28 人
H29. 11. 24	本山小学校	低温の世界	共通教育センター 金田和博 教授	37 人
H29. 12. 4	厚陽小学校	低温の世界	共通教育センター 浅野比 講師	30 人
H29. 12. 7	須恵小学校	ドライアイス（二酸化炭素）の性質	工学部応用化学科 佐伯政俊 講師	23 人

H29. 12. 8	須恵小学校	ドライアイス（二酸化炭素）の性質	工学部応用化学科 井口眞 教授	23 人
H29. 12. 11	須恵小学校	ドライアイス（二酸化炭素）の性質	工学部応用化学科 池上啓太 准教授	24 人
H29. 12. 14	出合小学校	ドライアイス（二酸化炭素）の性質	工学部応用化学科 白石幸英 教授	21 人
H29. 12. 15	有帆小学校	飛行機雲を見てみよう	工学部機械工学科 結城和久 教授	25 人
H30. 2. 8	有帆小学校	低温の世界	共通教育センター 金田和博 教授	28 人

(2) 小学生プログラミング教室

日 時：平成 29 年 6 月 24 日から 3 月 24 日までの全 10 回（15 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学 総合教育センター

講 師：共通教育センター 見山友裕 教授

内 容：KCOP 実行委員会（代表：山陽小野田市立山口東京理科大学共通教育センター見山友裕教授）主催のプログラミング教室に本学教員が参加しました。子ども向けのビジュアルプログラミング言語「Scratch(スクラッチ)」と「Smalruby(スモウルビー)」を学び、簡単なゲームをプログラミングするほか、発光ダイオードやモーターを利用した実験工作、レゴロボットのプログラミングキットを活用したロボットづくりに挑みました。対象者は小学校 4～6 年生で、定員 15 名を超える多数の応募がありました。全 10 回、毎月第 4 土曜日に開催しました。



(3) ジュニア科学教室

日 時：平成 29 年 7 月 30 日、平成 29 年 8 月 20 日

場 所：美祢市民会館、山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：「身の回りのもので音の実験を楽しもう」

共通教育センター 見山友裕 教授

「太陽電池で手作りモーターを回してみよう」

共通教育センター 浅野比 講師

内 容：山口県内の小学生・中学生を対象にした夏休みジュニア科学教室に協力し、楽しい科学実験を体験していただきました。

(4) スクールボランティア

将来、中学校・高等学校の理科の教員を目指す学生たちにより結成した教職サークルの学生たちが、ボランティアにより山陽小野田市内の小学校・中学校を訪問し、理科の授業の準備や片付け、実験の補助、個別指導の支援を行いました。

期 間：平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

場 所：市立赤崎小学校（前期：毎週火、木、金 後期：毎週月、木、金）5 人訪問

市立本山小学校（前期：毎週火、金、隔週木 後期：毎週月、金）4 人訪問

市立須恵小学校（前期：毎週月、金 後期：毎週水）3 人訪問

市立小野田小学校（前期：毎週金 後期：毎週火、水、金）5 人訪問

市立有帆小学校（前期：毎週水、金 後期：毎週金）2 人訪問

市立竜王中学校 夏期講習の学習補助 5 人訪問

市立小野田中学校 テスト期間中の学習補助 5 人訪問

顧 問：共通教育センター 福田廣 教授

(5) 小学生と留学生との異文化・国際交流会

日 時：平成 29 年 7 月 6 日

場 所：市立赤崎小学校

内 容：本学の外国人留学生 3 名が、市立赤崎小学校を訪問し、自国の文化や生活を紹介するとともに、日本の伝統的な遊びをするなど、小学生たちと楽しく交流する機会を持ちました。



(6) 小学生と中学生のキャリア学習「厚狭カタリ場」

日 時：平成 29 年 7 月 10 日（130 人）

場 所：市立厚狭小学校体育館、市立厚狭中学校体育館

内 容：本学の教職サークルの学生7名が、山口大学、山口県立大学の学生と一緒に、市内の小・中学生に大学生の体験談を語るキャリア学習プログラム「厚狭カタリ場」に参加しました。午前には厚狭小学校と出合小学校の6年生の児童、午後には厚狭中学校の生徒と語り合いました。

顧 問：共通教育センター 福田廣 教授



(7) ドローン航空写真撮影・ドローン講義

日 時：平成29年10月17日（火）講義・実演

平成29年10月26日（木）航空写真撮影

場 所：市立竜王中学校

講 師：工学部機械工学科 貴島孝雄 教授

内 容：中学生を対象に、ドローンの仕組みについての講義とドローンの実演を行い、竜王中学校のグラウンドにおいて実際にドローンを飛行させ、中学生とともに上空からの写真撮影を行いました。



(8) 市内小・中学校児童生徒科学研究発表会講師

山陽小野田市内の小・中学生が夏休みの自由研究の成果を発表する研究発表会に、大学の教員が講師として参加し、研究成果発表後の講評を行いました。

日 時：平成 29 年 9 月 28 日

場 所：山陽小野田市立本山小学校

講 師：共通教育センター 金田和博 教授

(9) 夏休み科学作品に対する学長賞の授与

日 時：平成 29 年 9 月 24 日

場 所：おのだサンパーク

授 与：森田廣 学長

内 容：山陽小野田市内の小・中学生による夏休み科学作品、約 200 点を学長が 1 点 1 点審査し、学長賞を授与しました。



3. 高等学校への貢献

(1) 理科教員のためのリカレントセミナー

日 時：平成 29 年 10 月 7 日（12 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：「Polymerase chain reaction(PCR)による Alu 配列の増幅 ～PCR によるゲノムの個人差の検出～」工学部応用化学科 岩館寛大 准教授

「第三の生体高分子糖鎖の生物学」共通教育センター 吉見陽児 講師

内 容：中学校・高等学校の理科教員を対象に、物理・化学・生物の輪番制で毎年開催し、現場の授業に役立つ実践的なプログラムを提供しています。平成 29 年度は生物をテーマに取り上げ、急速に進歩を遂げる生命科学の研究の成果の一端を紹介するとともに、大学の研究装置を使ってゲノム検出の実習を行いました。



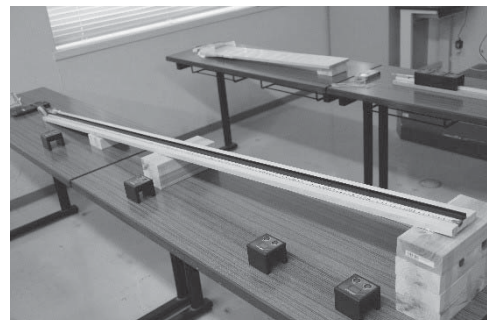
(2) 教員免許状更新講習

日 時：平成 29 年 8 月 19 日（2 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：「最近の科学的な自然観について」共通教育センター 吉村高男 教授

内 容：小学校、中学校（理科）、高等学校（理科）の教員を対象に、最新の知識技能を身に付け、これらの能力向上に資するような機会として、教員免許状更新講習を開催しました。



(3) 深い学びにつなげる理科研修講座

日 時：平成 29 年 10 月 25 日（16 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：「ものづくりを通じて深い学びを実現する～次世代を担う技術者を育てる現場から～」工学部機械工学科 貴島孝雄 教授

内 容：理科を担当する教員としての専門性の向上を図るため、生徒が自ら気付いて学ぶことで深い学びを実現する観察、実験の工夫について研修することを目的に、やまぐち総合教育支援センター主催の高等学校・特別支援学校「深い学びにつなげる理科（物理）研修講座」を本学で開催し、山口県内の高校教員が参加されました。講師として工学部機械工学科の貴島孝雄教授から「ものづくりを通じて深い学びを実現する～次世代を担う技術者を育てる現場から～」をテーマに講義・実習を行いました。参加者からは、「実際に開発の第一線で活躍されていた方のお話を聞くことができ大変参考になった」「溶接を体験したのは初めてで、とても貴重な体験だった」と感想が寄せられました。



(4) 山口県高教研理科部会長南地区研究協議会

日 時：平成 29 年 11 月 15 日（20 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：「新設薬学部 of 概要～特色と魅力～」薬学部設置準備室長 武田健 教授、
薬学部設置準備室 黒川陽介 教授

内 容：山口県高教研理科部会長南地区研究協議会が本学にて開催され、山陽小野田市・宇部市・美祢市から高等学校の理科教員が来学されました。始めに薬学部設置準備室の武田健教授・黒川陽介教授から「新設薬学部の概要～特色と魅力～」と題して、平成 30 年 4 月に開設される薬学部に関する講演を行いました。その後、工学部応用化学科の佐伯研究室、工学部機械工学科の永田研究室を見学し、参加高校出身の学生たちが、研究目的・研究課題・研究成果等を説明し、参加者は教え子たちの成長した姿に目を細めていました。参加者からは、「薬学部の丁寧な説明を聞くことができ、大変良い機会となった」「担任をしていた学生の成長を嬉しく思う」等の感想が寄せられました。



(5) 高校生体験学習・出前講義

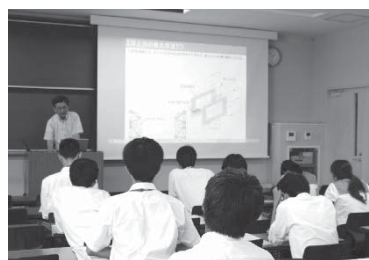
高校生を対象に、本学の実験実習施設を利用する「高校生体験学習」と本学教員が高校に出向く出前講義を行いました。

平成 29 年度の高校生体験学習の実施状況は次のとおりです。

	実施日	高等学校	担当教員
体 験 学 習	平成 29 年 7 月～8 月	山口県立下関中等教育学校 (海峡学)	工学部機械工学科 吉村敏彦 教授 工学部機械工学科 池田毅 准教授 工学部電気工学科 井上啓 教授 工学部電気工学科 山本眞也 講師 工学部応用化学科 白石幸英 教授 工学部応用化学科 岩館寛大 准教授 工学部応用化学科 佐伯政俊 講師 共通教育センター 見山友裕 教授 共通教育センター 木村良一 准教授
	平成 29 年 7 月 14 日	広島県立高陽高等学校	工学部機械工学科 吉村敏彦 教授 工学部電気工学科 阿武宏明 教授 工学部応用化学科 井口眞 教授
	平成 29 年 8 月 9 日	山口県立山口高等学校	工学部応用化学科 石川敏弘 教授 工学部応用化学科 井口眞 教授 工学部応用化学科 橋本慎二 教授 工学部応用化学科 北條信 教授 工学部応用化学科 星肇 教授 工学部応用化学科 池上啓太 准教授
	平成 29 年 8 月 22 日	山口県立宇部高等学校 (SSH)	工学部電気工学科 吉岡健 教授 工学部応用化学科 北條信 教授
	平成 29 年 9 月 28 日	福岡県立玄洋高等学校	共通教育センター 金田和博 教授 共通教育センター 浅野比 講師 共通教育センター 吉見陽児 講師
	平成 29 年 12 月 6 日	山口県立宇部工業高等学校	工学部応用化学科 石川敏弘 教授

平成 29 年度の出前講義の実施状況は次のとおりです。

	実施日	高等学校	担当教員
出 前 講 義	平成 29 年 6 月 20 日	山口県立小野田高等学校	工学部応用化学科 橋本慎二 教授
	平成 29 年 6 月 29 日	福岡県立八幡南高等学校	工学部電気工学科 井上啓 教授
	平成 29 年 7 月 10 日	山口県立宇部鴻城高等学校	工学部電気工学科 森田廣 学長
	平成 29 年 9 月 19 日	山口県立高森高等学校	工学部機械工学科 貴島孝雄 教授
	平成 29 年 11 月 20 日	愛媛県立今治北高等学校	工学部電気工学科 大嶋伸明 講師
	平成 29 年 11 月 22 日	山口県立長府高校	工学部応用化学科 北條信 教授
	平成 29 年 12 月 8 日	山口県立山口中央高等学校	工学部応用化学科 井口眞 教授
	平成 30 年 1 月 26 日	山口県立熊毛南高校	薬学部設置準備室 武田健 教授
	平成 30 年 2 月 15 日	山口県立柳井高校	薬学部設置準備室 黒川陽介 教授
	平成 30 年 3 月 14 日	山口県立熊毛南高校	薬学部設置準備室 武田健 教授
	平成 30 年 3 月 19 日	山口県立徳山高校	薬学部設置準備室 武田健 教授
	平成 30 年 3 月 19 日	山口県立下松高校	工学部応用化学科 橋本慎二 教授
	平成 30 年 3 月 2 日	サビエル高校	薬学部設置準備室 武田健 教授 薬学部設置準備室 黒川陽介 教授



4. 企業への貢献

(1) 研究室公開

日 時：平成 29 年 11 月 17 日（26 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：大学の研究成果を知的資源として還元し、地域産業の発展に寄与することを目的としたイベントです。平成 29 年度は、工学部機械工学科、電気工学科、応用化学科、共通教育センター及び薬学部設置準備室の 35 研究室がポスター展示、24 研究室が公開を行いました。森田廣学長から日頃のご支援に対するお礼と挨拶があり、続いて工学部機械工学科・永田寅臣教授、電気工学科・井上啓教授、応用化学科・白石幸英教授 から各学科の研究内容の紹介を行い、地域連携センター長・高頭孝毅教授から研究設備の紹介を行いました。



(2) 技術相談会

日 時：平成 29 年 11 月 17 日

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：本学にて研究している技術の紹介を行い、地元企業及び地域産業界のニーズとのマッチングを行う技術相談会を開催しました。地元企業の方が産学連携の共同研究の相談や機器センターの装置の利用に関する相談に訪れていました。また、研究室見学ツアーも実施し「機械工学科・池田研究室」「応用化学科・池上研究室」「液晶研究所・クリーンルーム」「機器センター」の 4 か所を回り、担当教員が研究内容等を説明しました。参加者からは多くの質問が出て、教員が丁寧に回答する場面が見られました。なお、平成 29 年度技術相談会は研究室公開と同時開催いたしました。



(3) 研究機器の開放

研究機器センターに設置している大型の測定装置、分析装置を企業に開放しています。平成 29 年度の利用状況は次のとおりです。

利用企業数	利用回数
2 社	13 回

(4) 研究シーズ集の発刊

地域が抱える課題解決のヒントや企業の新規事業創出の一助になることを願い「研究シーズ集」を作成し、市内外の関係機関に配付し、大学ホームページに掲載しました。

＜研究シーズ集のホームページアドレス＞

<http://www.socu.ac.jp/laboratory/regional-collaboration/seeds.html>

(5) 商工会議所会報による大学技術紹介

地元企業の皆様に、本学の研究技術を知っていただく機会の一つとして、小野田商工会議所、山陽商工会議所の会報に、毎月本学の研究技術を紹介する記事を連載させていただきました。平成 29 年度に掲載した内容は次のとおりです。

テーマ	担当教員
特殊ポラス管を用いた超小型熱交換器開発と熱流動 CAE 受託	工学部機械工学科 結城和久 教授
情報理論的アプローチによるデータ解析	工学部電気工学科 井上啓 教授
超分子(シクロデキストリン)を用いた植物工場	工学部応用化学科 白石幸英 教授
人に役立つロボット技術の応用	工学部機械工学科 池田毅 講師
産業応用ドローン技術の開発	工学部電気工学科 吉岡健 教授
高機能無機材料の開発ならびに機能発現メカニズムの解析	工学部応用化学科 石川敏弘 教授

認知症克服に向けた非臨床試験	共通教育センター 准教授 木村良一
ものづくりと感性価値創造プロセス及び技術	工学部機械工学科 教授 貴島孝雄
未利用熱から電気をつくる熱電発電技術	工学部電気工学科 教授 阿武宏明
分子集合体の物性化学	工学部応用化学科 教授 井口眞
キャビテーション気泡を用いた高機能表面を創る加工技術	工学部機械工学科 教授 吉村敏彦
情報工学からアプローチする自律ロボット	工学部電気工学科 講師 山本眞也

(6) やまぐち総合ビジネスメッセ

日 時：平成 29 年 10 月 28 日（130 名）

場 所：周南市麒麟ビバレッジ周南総合スポーツセンター

内 容：山口県内の企業や団体など 160 社以上が出展する、やまぐち総合ビジネスメッセに出展し、本学の研究紹介を行いました。また、平成 30 年 4 月に新設される薬学部についての P R を行いました。

出 展：工学部電気工学科 高頭研究室

「液晶技術から生まれた 3 D 装飾技術マジカルシャドー」

工学部電気工学科 阿武研究室

「夢を拓く電子材料の開発に挑戦 ―エネルギーデバイスの開発―」

工学部応用化学科 白石研究室

「機能性ナノ粒子の創製と応用」他



(7) 商工会議所での講演

日 時：平成 30 年 2 月 14 日

場 所：小野田商工会議所

講 師：「開かれた“知の場”として山口東京理科大学の目指す姿」池北雅彦 理事長

内 容：小野田商工会議所、山陽商工会議所の行事に本学の教職員が参画しています。
平成 29 年度は、第 38 回小野田商工会議所会員大会にて池北理事長が講演を行いました。

(8) 小野田青年会議所での講演

日 時：平成 30 年 2 月 11 日

場 所：山陽小野田市民館文化ホール

講 師：「開かれた“知の場”であり続ける山口東京理科大学の目指す姿」
池北雅彦 理事長

内 容：小野田青年会議所に関わる行事へ本学の教職員が参画しています。平成 29
年度は、建国記念式典にて池北理事長が講演を行いました。

5. 地域団体への貢献

(1) 住吉まつりでの「龍舞」披露

日 時：平成 29 年 5 月 28 日

場 所：住吉神社及び周辺沿道（山陽小野田市東住吉町）

内 容：山陽小野田市住吉地区にて行われる「復活！住吉まつり」において、本学の学生たちが、玉を追いかける龍の様子を模している「龍舞」を披露しました。

子どもエリアでは、子ども向け科学実験を「科学部 HMS (Hand Made Science 部)」、小型レーシングカーの展示を「自動車部」、ワイヤーで作ったコースに電極棒を入れてゴールを目指すイライラ棒を「ロボット・メカトロニクス部」がそれぞれ出展しました。その他ロボットがお茶を運ぶ「からくり人形」も出展し、子どもたちの人気を博していました。

また、前夜祭・本祭とも「竜王祭実行委員会」と「理科大警備隊」の延べ 24 名がボランティアとして参加し、「復活！住吉まつり」の盛り上がりをお手伝いしました。



(2) 山口化学展「おもしろワクワク化学の世界」

日 時：平成 29 年 8 月 25 日～27 日（3,400 名）

場 所：おのだサンパーク

内 容：日本化学会中四国支部主催の「山口化学展 2017～おもしろワクワク化学の世界～」が開催され、本学の工学部応用化学科から「いろみずのてじな」、「ホタルの光をみてみよう～酵素のはたらき～」を出展しました。このイベントは、化学の正しい知識、面白さ、不思議さを次代を担う子どもたちに伝えようと、毎年、中四国の各県を持ち回りで開催しています。山陽小野田市での開催は 2008 年以來、4 回目となりました。会場内は、どのブースも子どもたちの行列ができており、熱気に包まれていました。



(3) 社会福祉協議会に対する大学説明会

日 時：平成 29 年 12 月 8 日（16 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山陽小野田市赤崎地区社会福祉協議会の皆様に対する大学説明・見学会を開催しました。森田学長から「学生を中心に、この街をもっともっと活性化していきたい。そのために地域の皆様のお力をお貸しください。」との挨拶の後、現在と昔の大学の様子を比較しながらの大学説明を行いました。また、ものづくり工房を見学し、工学部機械工学科の貴島孝雄教授から学生の活動について、丁寧に紹介を行いました。参加者からは「初めて大学の構内に入りました。私たちでも利用できる施設があるのですね。」と話されました。



(4) 民生児童委員協議会に対する大学見学会

日 時：平成 29 年 10 月 5 日（12 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山陽小野田市山陽地区民生児童委員協議会高齢福祉部会の皆様が、本学の視察研修に来られ、「地域に開かれた大学」をテーマに本学の地域との連携活動状況紹介を交えた大学説明を行いました。参加者からは「高齢者が大学を生涯学習の場として利用する場合にはどのような利用方法がありますか」など積極的に質問があり、会場は活気に溢れました。その後、構内施設の見学をしました。3 号館屋上から建設中の薬学部校舎を眺め、市民の方も利用できる研究機器センターや図書館を見学しました。



(5) 連合女性会に対する大学見学会

日 時：平成 29 年 10 月 3 日（49 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山陽小野田市連合女性会の皆様が大学を訪問されました。同連合会では、女性会主催、山陽小野田市教育委員会共催で、「女（ひと）と男（ひと）のいきいき市民カレッジ」という連続講座を毎年開催しています。その中で、本学について学びたいという声が多く寄せられたことから、本年度の講座として本学への訪問が実現しました。初めに森田廣学長から本学の紹介があり、本学が心がけている丁寧な教育や、地域との交流、来年 4 月に開設する薬学部の話などに、参加者は熱心に耳を傾けました。その後、2 グループに分かれて、構内施設を見学し、一般の方も利用可能な食堂・図書館を見学し、参加者からは「また日を改めて、ゆっくり大学を訪ねたい。」という感想も聞かれました。



(6) 日本分析化学会中国四国支部講演会

日 時：平成 30 年 1 月 17 日

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：本学教員が関わる学術学会について施設提供や協力を行っています。平成 29 年度には、本学を会場として日本分析化学会中国四国支部が主催する講演会を開催しました。

事務局：共通教育センター 浅野比 講師

(7) りゅうみんネット懇談会

日 時：平成 29 年 7 月 31 日（150 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：「学長からのご挨拶～これからの教育と本学～」 森田廣 学長

内 容：毎年本学を会場に開催される、山陽小野田市立竜王中学校、赤崎小学校、本山小学校地区の教職員や P T A 関係者が参加するりゅうみんネット懇談会において、本学学長による講演を行いました。

(8) 理科大生を支援する店

山陽小野田市内事業者「理科大生を支援する店」になっていただき、優待付のお店として、大学案内等に掲載しました。平成 29 年度現在の理科大生を支援する店は次のとおりです。

理科大生を支援する店	学生優待内容
うどんの庄 住吉	500 円以上のお食事で「50 円引き」又は「ミニアイスサービス」のどちらか。
レストランやけの	レストラン商品 10 %off
住宅サポート	アパート契約者に QUO カード 1000 円分
西日本自動車学校	入校者には、第一食堂食券(3000 円分) 理科大割 (10,800⇒21,600)
宇部中央自動車学校	理科大生優待割引
有限会社エステートいしべ	山陽小野田市プロフィールマップを贈呈
きょくとうクリーニング理大前店	クリーニング 2 割引き
HPS ヤマガタ (自動車修理・車検等)	粗品を贈呈
株式会社宇都宮帆布工房	かばんオーダー時、イーザーオーダー 1 か所無料

(9) 山口県薬剤師会未来の薬剤師セミナー

日 時：平成 29 年 9 月 24 日 (234 名)

場 所：宇部市文化会館

講 師：薬学部設置準備室長 武田健 教授

薬学部設置準備室 望月正隆 特命教授

内 容：山口県内の高校生・中学生を対象に、薬剤師による職業を紹介、薬学生による大学生活紹介が行われ、本学からは平成 30 年 4 月に設置を予定している薬学部の紹介を行いました。



(10) 山口県立美術館キャンパスメンバーズ

本学の学生が、地域の文化と芸術に触れる機会をもてるように、学生証を提示することにより、山口県立美術館と山口県立萩美術館・浦上記念館の2館が開催する普通展示及び企画展を、無料で何度でも鑑賞できるように、山口県立美術館キャンパスメンバーズに、本学が加入しました。

6. 学生による地域貢献

(1) 科学部HMSによる「おもしろ科学大実験」

日 時：平成 29 年 11 月 26 日

場 所：山陽小野田市立中央図書館

内 容：本学のクラブ活動団体であるHMS（Hand Made Science）部の学生たちが、山陽小野田市立図書館フェスティバル（来場者 2,024 名）において、「おもしろ科学大実験」を行い、「人工雲の実験」や「つかめる水をつくろう」などの実験を披露しました。また、HMS 部の学生たちは、本図書館フェスティバルのほか、かがく博覧会、小野田まつり、住吉まつり、竜王祭などで、おもしろ科学大実験を行いました。

顧 問：工学部応用化学科 佐伯政俊 講師、管財課 八鍬忠雄 課長補佐



(2) 科学部HMSによる「ロケット打ち上げ大会」

日 時：平成 29 年 5 月 21 日

場 所：山口県セミナーパーク

内 容：本学のクラブ活動団体であるHMS（Hand Made Science）部の学生たちが、「セミナーパークふれあいフェスタ 2017」に参加し、ロケット打ち上げ大会「とんでけロケット」を行いました。参加した子どもたちは、ペットボトルに思い思いのペイントを施してロケットを作成し、水と空気圧を利用して打ち上げました。ひとつ飛ぶたびに周囲からは大きな歓声が上がりました。

顧 問：工学部応用化学科 佐伯政俊 講師、管財課 八鍬忠雄 課長補佐



(3) 理科大音楽部と市民のジョイントコンサート

日 時：平成 29 年 2 月 10 日（150 名）

場 所：山陽小野田市民会館文化ホール

内 容：小野田音楽連盟主催、本学共催による「音りんく〜理科大音楽部と市民のジョイントコンサート」を開催し、150 名を超える市民の皆様が参加されました。当日は、本学から 7 団体が演奏を行い、交響楽、軽音楽などの音楽を通して交流するとともに、文化ホールのロビーには展示ブースが設けられ、本学から、写真サークル、生物部、アプリ開発部、自動車部による展示と紹介が行われました。参加した学生団体は次のとおりです。

フィルハーモニー交響楽団、理科大ダンス部、軽音楽部の 5 団体（サンド、くらげ帝国、カモナベ、Your Name's PIERROT、AIM BEHIND）

顧 問：共通教育センター 木村良一 准教授（軽音楽部）



(4) アプリ開発研究部「山陽小野田市クイズアプリ」の開発

本学クラブ活動団体である「アプリ開発研究部」が、山陽小野田市に関するスマートフォンアプリ「山陽小野田市クイズ」を開発しました。

このアプリは、市内の観光や歴史に関する 4 択クイズに解答しながら目的地をめざすゲームです。プログラムやイラストなど、すべてを部員 25 人で制作しました。クイズの内容に関しては、市内の動植物に詳しい生物部と共同で作成し、今後は問題数を増やしたり、他市のバージョンも制作したりする予定です。

また、3D モデルを使って宇部市の観光名所を探索するアプリ「Sightseeing In Ube」(Android)を開発し、第3回オープンデータアプリコンテスト宇部に出場しました。
 なお、両アプリとも Google Play からダウンロードできますので、是非ご利用ください。
 顧問：工学部電気工学科 高頭孝毅 教授



(5) All Tea Garden 部による「理科大かたつむりカフェ」

日時：平成30年1月18日

場所：山陽小野田市民館

内容：山陽小野田市が日本一健康なまちづくりをめざして策定した行政と市民の行動計画の一つとして、健康の情報を共有し、交流できる場を提供し、年をとっても、地域社会でいつまでも暮らせる地域包括ケアの一環として取り組んでいる「かたつむりで行こう会」において、本学クラブ活動団体の茶研究サークル「All Tea Garden」の学生たちによる「理科大かたつむりカフェ」を行い、地域の皆さまとコーヒーや紅茶を飲みながら健康をテーマにしたフリートークに花を咲かせ、親交を深めました。

顧問：工学部電気工学科 森田廣 教授



(6) フィルハーモニー楽団・軽音楽部による山口労災病院コンサート

日時：平成29年8月10日

場所：山口労災病院

内容：山口労災病院のロビーにて、患者の皆様を対象にした七夕コンサートが開催され、本学のフィルハーモニー交響楽団と軽音楽部の2団体が演奏しました。30分間のコンサートの中で、それぞれ「ジブリメドレー」を含めた4曲、オ

オリジナル曲を含めた3曲を演奏いたしました。「上を向いて歩こう」を弾き語りした際には、観客から手拍子が沸き起こり、一緒に歌って頂くなど、会場一体となって大変盛り上がりました。



(7) 理科大警備隊による警察防犯ボランティア活動

日 時：平成 29 年 11 月 9 日

場 所：J R 雀田駅

内 容：本学クラブ活動団体のボランティアサークル「理科大警備隊」の学生たちが、山陽小野田警察署と J R 西日本と連携して、J R 雀田駅の構内及び駐輪場にて盗難自転車や防犯登録をしていない自転車の調査を行う防犯ボランティア活動を行いました。

顧 問：工学部電気工学科 穂本光弘 講師

(8) 理科大警備隊「うそ電話詐欺防止の寸劇」

日 時：平成 30 年 2 月 20 日

場 所：山陽小野田市不二輸送機ホール

内 容：本学クラブ活動団体のボランティアサークル「理科大警備隊」の学生たちが、山陽小野田安全安心フェスタにおいて山陽小野田警察署員と一緒に、寸劇でオレオレ詐欺の手口を紹介しました。寸劇では、学生が金色の全身タイツに鳥のかぶり物という衣装の犯人役をし、山陽小野田警察署のヒーロー「Y P レンジャー竜王」に詐欺グループもろとも一網打尽にされました。音響装置は、学生が大学でのアプリケーションソフト開発の経験を生かして場面に合わせた音で劇を盛り上げました。

顧 問：工学部電気工学科 穂本光弘 講師



寸劇の練習に励む学生（右）と署員

(9) 竜王祭

日 時：平成 29 年 11 月 18 日・19 日

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：竜王祭実行委員の学生が企画から運営まで行う竜王祭を開催し、学生や卒業生、地域の方々が大勢集まりました。今年の竜王祭のテーマは「Catch the Moment」と掲げ、「その瞬間を掴め、逃がすな」という意味が込められています。模擬店や大声大会、餅まき、ビンゴ大会などイベントは多岐にわたりました。また、地域への参加も募り、キッズダンスやよさこい、自衛隊音楽隊など多くの方に参加いただきました。また、声優「洲崎 綾」さんのトークショー、山陽小野田市出身の兄弟デュオ「SORGENTI (ソルジェンティ)」ライブ、山口県を中心に活躍中の「オレンジ☆みるふい〜ゆ」ライブが行われました。



(10) クリーンキャンペーン

日 時：平成 29 年、6 月 14 日、6 月 15 日、10 月 31 日、11 月 1 日（120 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学及び大学周辺通学路

内 容：クリーンキャンペーンは、学生・教職員のボランティアによる清掃活動で、「やまぐちの美しい里山・海づくり条例」に基づく環境美化活動促進に合わせて行い、環境美化に対する意識をより高める取り組みとして行っています。JR 雀田駅から大学までの通学路及び大学の周辺を中心に、ゴミ、タバコの吸い殻、空き缶、雑草等を回収し、回収後はゴミの分別を行いました。



7. 学生の研究成果による貢献

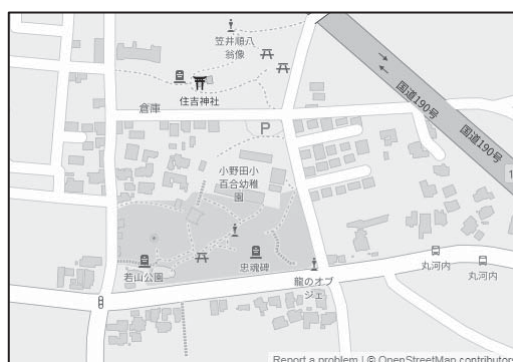
(1) 地域 GIS 活動

日 時：平成 29 年 4 月 1 日～（10 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学、竜王山公園、若山公園、高泊等

内 容：工学部電気工学科の学生が、地域・地理情報システム（GIS：Geographic Information System）活動に取り組んでいます。山陽小野田市内を歩いて収集した情報を WEB 上の地図（Open street map）に追加する試みを行い、市内各所の電子地図を作成しました。

顧 問：工学部電気工学科 井上啓 教授



(2) 理科大生とのマッピングパーティー

日 時：平成 29 年 11 月 11 日（10 名）

場 所：山陽小野田市旦の皿山

内 容：電子地図を作成することを目的に、山陽小野田市観光協会職員と本学教員、学生が、地域の情報を収集しながら散策する「理科大生とのマッピングパーティー」を行っています。平成 28 年度の江汐公園に続き、平成 29 年度は旦の皿山周辺で開催しました。

顧 問：工学部電気工学科 井上啓 教授



(3) デマンド型交通システムのシミュレーター開発

日 時：平成 29 年 4 月 1 日～（1 名）

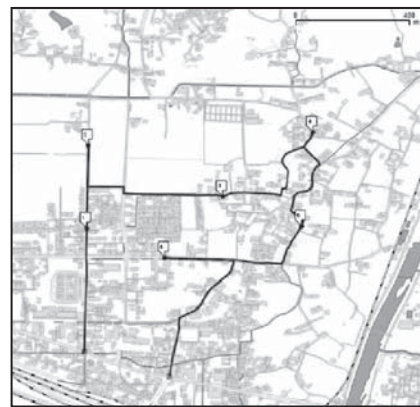
場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

内 容：山陽小野田市は山陽小野田市厚狭北部地域地区のサービス向上を目指し、デマンド型交通システムを運用しています。工学部電気工学科井上研究室では、山陽小野田市商工労働課と連携して、同システムを支援するソフトウェアを開発しています。平成 29 年度は、工学部電気工学科 4 年生が、卒業研究として、山陽小野田市のデマンド型交通システムにおける巡回経路探索の改良と機能追加を行う研究に取り組みました。

指導教員：工学部電気工学科 井上啓 教授



ソフトウェアの操作画面



「基盤地図情報データ」(国土地理院)上に巡回経路探索結果を表示

8. 地域の知を教育に生かす取り組み

(1) 地域卒業研究

工学部の卒業研究において、学生が地域に関する研究テーマに取り組んでいます。

平成 29 年度には次のテーマに取り組みました。本学では、地域に関する卒業研究を奨励しており、地域卒業研究に取り組む研究室には、学長から実験実習費の加算配分を行っています。

研究テーマ	研究室
地域企業の開発した特色ある材料を用いた沸騰伝熱促進技術の開発	工学部機械工学科 海野研究室
爆発圧縮成型ポラス管の伝熱性能評価と高性能小型熱交換器の開発	工学部機械工学科 結城研究室
カーボンナノチューブとナノ粒子のハイブリッド化による機能性向上の研究	工学部電気工学科 阿武研究室 工学部応用化学科 白石研究室
山陽小野田市デマンド型交通システムにおける巡回経路探索シミュレーター	工学部電気工学科 井上研究室
山陽小野田市の公共交通バス経路探索システムの試作	工学部電気工学科 井上研究室
山陽小野田市における推奨風力発電の研究	工学部電気工学科 森田研究室
山陽小野田市の田んぼや畑を利用した発電の基礎研究	工学部電気工学科 森田研究室

(2) リーダーシップ論

地元産業界のリーダーを講師として招き、討論と分析・発表等を行いながら幅広い視野と分析力、意思決定力、問題解決力等を養います。



山口県前副知事
西村 亘 氏



山陽小野田市長
藤田剛二 氏



長州産業株式会社
代表取締役社長
岡本晋 氏

ほか

(3) 地域技術学

小野田商工会議所、山陽商工会議所の協力を得て、地元企業が抱えている技術的な課題について、SWOT 分析や KJ 法等を活用しながら、その解決手段をグループワークにより検討し、総括としてその発表を行う授業です。

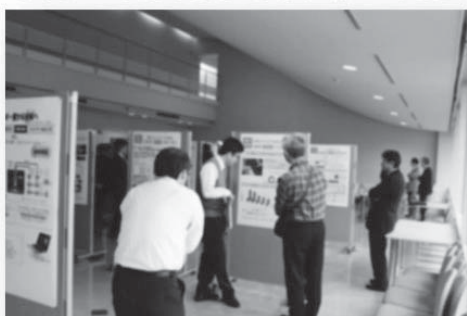
企業から課題をご提供



学生がチームで課題解決策を作成



学内・市庁舎等でポスター発表



企業にプレゼンテーション



(4) 地域産業論

山陽小野田市、宇部市の他、山口県の中小企業の状況と経済について共通教育センター 見山教授が講義を行いました。さらに、電気工学科 吉岡健教授と機械工学科 貴島孝雄教授がものづくりに関するご自身の専門について経験談を話されました。

(5) 地域社会学

地域社会学の専門家による理論面と、山陽小野田市及び小野田青年会議所と連携をとりながら地域の課題をグループワークにより抽出し、その解決を図る実践面とを学びます。平成 29 年度の主な発表テーマは次のとおりです。

主な発表テーマ	グループ
山口東京理科大学の就職先について	2 班
山口県の人口減少・地方の若者の意識について	3 班
山口県の就職先と人口流出について	6 班

(6) 県内企業インターンシップ

山口県内への学生定着を目指し、学生のキャリア教育や職業体験を支援するため、県内企業インターンシップに積極的に学生が参加しています。

平成 29 年度は 143 名が参加するなど、前年度の参加者数を大きく上回りました。



(7) 学生ボランティア活動

市内を中心とした行事等に積極的に参加し、地域貢献、地域振興を図ることを通して社会人基礎力を養うことを目的し、学生へボランティア活動の紹介を行っています。

ボランティア活動に参加した学生は、一定の要件を満たす場合は、単位の認定を行っています。平成 29 年度には、次のとおり学生ボランティアの紹介を行いました。

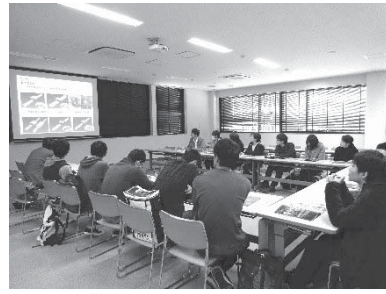
日程	ボランティアの内容	参加者数
6 月 10 日（土）	第 37 回ふれあい運動会（設営・選手誘導等）	10 名
7 月 16 日（日）	やけの美タフェスタ（清掃活動）	10 名
8 月 23 日（日）	『24 時間テレビ愛は地球を救う』（街頭募金）	11 名
9 月 10 日（日）	あなたの協力で助かる命があります！ （献血・献血 PR 運動）	4 名
11 月 26 日（日）	第 5 回中央図書館フェスティバル （実験補助・設営等）	8 名

(8) 市内企業見学ツアー

平成 29 年 11 月 20 日（18 名）

訪問先：西部石油株式会社、THK 株式会社、長州産業株式会社

内 容：山陽小野田市の産業や地元企業の魅力について学生の理解を深めるため、工学部 1・2 年生を対象として市内の主要な企業を巡るバスツアーを実施しています。平成 29 年度には 3 社を訪問し施設見学を行いました。



(9) リーダースキャンピング（ノートテイクに関する勉強会）

日 時：平成 29 年 2 月 6 日（約 30 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：山陽小野田市要約筆記活動団体ねたろう

内 容：各クラブのリーダーが集まり山陽小野田市の要約筆記活動団体「ねたろう」さんをお招きして勉強会を開催し、聴覚障害の特性及び聴覚障害学生が受講する授業における情報保障手段（ノートテイク）を、聴覚障害の疑似体験とノートテイクの体験を通して学びました。参加した学生からは「ケに丸（健聴の略号）の方はどのようにノートを取るのか、実際（実物）を見たかった。」「ノートテイクに関して、日頃から接する機会がなかったので良い経験となった。」等の感想がありました。



(10) 地域イノベーション戦略支援プログラム

研究者：工学部応用化学科 池上啓太 准教授

先進材料研究所 Tarun Chand Vagvala 助教

先進材料研究所 Vit Kalousek 助教

内 容：文部科学省の地域イノベーション戦略支援プログラム（採択：山口県）に、本学は実施機関として参画し、地域イノベーション戦略の中核を担う研究者を集積して、「光触媒による水素製造技術の開発」及び「二酸化炭素の固定化及び炭化水素化合物変換技術」研究開発を推進しました。

(11) 地域の環境に関する研究活動

本学では地域の環境に関する研究活動に取り組んでいます。

研究テーマ	研究者
2013 年から 2017 年度の山口県山陽小野田市における大気環境-PM2.5 の推移	共通教育センター 浅野比 講師 工学部応用化学科 白石幸英 教授

9. 地方公共団体への貢献

(1) 未病に関する官学勉強会

日 時：平成 30 年 2 月 6 日（35 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：「これからの地域医療～地域医療包括ケアシステムによる未病対策～」

池北雅彦 理事長

内 容：山陽小野田市の健康福祉行政及び高齢者福祉行政を担当する職員を対象に、未病に関する官学勉強会を開催しました。山陽小野田市の藤田市長、古川副市長の他、本学の薬剤師の資格を有する薬学部設置準備室の教授が参加しました。本学の池北雅彦理事長から「これからの地域医療～地域医療包括ケアシステムによる未病対策～」をテーマに、未病とは何か、健康寿命の延伸への施策と地域医療の果たす役割等についての話題提供が行われました。その後、地域医療における、大学やかかりつけ薬剤師の役割等について活発な意見交換がなされ、市の方々の健康寿命延伸への熱意が伝わってくる有意義な勉強会となりました。



(2) 薬学行政に関する官学勉強会

日 時：平成 29 年 12 月 16 日（35 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課 磯部総一郎 課長

山口県環境生活部・行政薬剤師 梶井浩志 調整監

山陽小野田薬剤師会 藤原哲 会長

内 容：大学教職員、山陽小野田市職員を対象に、厚生労働省、山口県、山陽小野田薬剤師会の皆様から、様々な視点から講演をいただき、医薬分業の進展から今後の薬学・薬剤師の方向、山口県の医薬品の歴史から産官学に関する今後展望等を学びました。



厚生労働省磯部課長様



山口県梶原調整監様



小野田薬剤師会藤原会長様

(3) 山陽小野田市中央図書館フェスティバル

日 時：平成 29 年 11 月 26 日 (2,024 名)

場 所：山陽小野田市立中央図書館

内 容：山陽小野田市立中央図書館フェスティバルにて、本学の学生サークルや学生ボランティアが参画し、HMS 部による科学実験、学生フォーミュラカー展示会、All Tea Garden（お茶研究会）によるコーヒーサービスなどを行いました。

(4) うべの里アートフェスタ

日 時：平成 29 年 11 月 3 日

場 所：旧吉部小学校

内 容：現代日本彫刻展 UBE ビエンナーレに合わせて宇部市において開催されるアートイベント「うべの里アートフェスタ」に、自動車部の学生たち 9 名が、全日本学生フォーミュラ大会に出場したマシンの展示を行いました。

顧 問：工学部機械工学科 貴島孝雄 教授



(5) 市立図書館との相互利用

山陽小野田市立図書館と本学図書館との包括的連携協定に基づき、市民の学習活動に資するため、また研究者や学生の教育、研究及び学習活動に資するため、図書館資料の相互貸借を行っています。平成 29 年度の大学と市立図書館間での相互貸借による利用冊数は 29 冊です。

市立図書館で直接借りた本を本学の図書館カウンターで返却することができるうえ、市立図書館の本をインターネット予約で借りる際、受渡館に「山陽小野田市立山口東京理科大学図書館」を選択することにより予約した本を本学の図書館カウンターで受け取ることができます。平成 29 年度に返却窓口として利用された本は 21 冊です。

(6) 電気自動車 EV 利活用モニター事業プロジェクト

日 時：平成 29 年 8 月 24 日

場 所：長門市仙崎の市観光案内所

代 表：工学部機械工学科 貴島孝雄 教授

内 容：平成 29 年 8 月 24 日に、1 人乗りの電気自動車（EV）や電動バイクを無料で貸し出す山口県の「やまぐち ちょこのり EV」のモニター事業の開始にあたり、長門市仙崎の市観光案内所で開会式がありました。この事業は、本学の教員である貴島孝雄教授が代表を務める「EV 利活用モニター事業プロジェクトチーム」が、次世代自動車の普及促進などを目的に企画したものです。公募で決まった県内各地の 10 団体でモニター事業を実施し、走行記録、利用方法、アンケートの結果等を解析し、次世代自動車としての汎用性の検証と普及に活用します。



(7) 選挙啓発活動

山陽小野田市選挙管理委員会事務局との協力により、選挙活動に関する啓発資料を学内に展示・配付し、学内に投票活動を促す看板を設置するなど、選挙についての啓発活動を行いました。また、学内に投票所を設置することについて協議を進めています。

(8) 市議会議員対象の大学説明会

日 時：平成 29 年 7 月 21 日（46 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：「公立化 2 年目の現状と展望」池北雅彦 理事長、森田廣 学長

「薬学部を設置構想」薬学部設置準備室長 武田健 教授

内 容：山陽小野田市議会と宇部市議会の両議会が、広域連携に係る懸案事項や共通する課題などに対し認識を共有し、今度の有益な議会活動の参考にするための意見交換の一環として本学を訪問しました。池北理事長が挨拶を行い、森田学長から公立化 2 年目の現状と展望について、薬学部設置準備室の武田室

長から薬学部の設置構想について説明を行いました。その後の質疑応答では活発な意見交換が行われ、本学への期待の大きさが感じられました。



(9) 各種委員の応嘱（行政関係）

本学における平成 29 年度の各種委員の応嘱の状況は次のとおりです。

委員会・審議会	内 容	本学委員
小野田中学校 学校運営協議会委員	地域のネットワークを形成し学校・家庭・地域が連携・協働することにより社会総がかりで小中 9 年間の子供たちの学び育ちを見守り支援します。	共通教育センター 福田廣 教授
山陽小野田市教育委員会 教育に関する事務の点検及び評価を行うにあたっての学識経験者	教育に関する事務の点検・評価を行うに当たり、客観性を確保するため教育に関し学識経験を有する方の知見を活用します。	共通教育センター 見山友裕 教授 工学部電気工学科 吉岡健 教授
山陽小野田市 自治基本条例審議会委員	山陽小野田市自治基本条例の見直しの検討に当たり、公募委員のほか、学識経験者や市民団体等の役員等から意見を聴取します。	工学部応用化学科 白石幸英 教授
山陽小野田市 地方創生協議会委員	山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に当たり、まちづくりに関する識見を有する市民等から意見を聴取します。	森田廣 学長
山陽小野田市 国際交流協会委員	国際交流や国内地域間交流を推進し、国際化に対する認識・理解や国内の他地域との相互理解を深め世界に開かれた地域社会づくりに寄与します。	森田廣 学長
山口県 全国都市緑化やまぐちフェア実行委員会委員	山口県内関係団体協力のもと、フェアの円滑な実施及び運営を図るため、全国都市緑化フェア実施要領に基づき委員会を設置する。	森田廣 学長

山陽小野田市 都市計画審議会委員	都市計画の内容、都市計画制限、都市計画事業など都市計画に関し必要な事項を定めることにより都市の健全な発展と秩序ある整備を図ります。	森田廣 学長
山陽小野田市 基本構想審議会委員	平成 30 年度から平成 41 年度までの 12 年間の第二次山陽小野田市総合計画の策定に当たり、有識者から意見を聴取します。	森田廣 学長
山陽小野田市 中小企業振興協議会 委員	山陽小野田市の中小企業振興推進計画の策定及び施策の検証を行うに当たり、関係団体及び市民代表から意見を聴取します。	工学部機械工学科 吉村敏彦 教授
山口地域留学生交流 推進会議 運営委員会委員	山口地域における留学生の円滑な受け入れの促進と相互交流の推進を図り、地域住民の国際理解の増進に寄与します。	森田廣 学長
山陽小野田市 情報公開審査会委員	山陽小野田市情報公開条例の公文書の公開請求の決定又は不作為に係る審査請求について審議します。	共通教育センター 村田貴信 教授
山陽小野田市 個人情報保護審査委 員会委員	個人情報の開示決定又は不作為に対する審査請求について審議し、実施機関から求められた事項について意見を述べます。	共通教育センター 村田貴信 教授
山陽小野田市 男女共同参画審議会 委員	本学から男女共同参画審議会の委員を推薦しています。	共通教育センター 池田容子 准教授
山陽小野田市 空き家等対策協議会委員	空き家の適正管理や利活用等の空き家対策を推進するため空き家対策計画策定の協議を行います。	共通教育センター 金田和博 教授
山陽小野田市 地域公共交通会議委員	地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送の態様及び運賃・料金等に関する事項など公共公共交通網形成計画について協議します。	工学部電気工学科 井上啓 教授
山陽小野田市 観光関係団体ネット ワーク会議委員	観光関係団体や事業所のネットワークづくりを構築します。	工学部電気工学科 井上啓 教授
山陽小野田市 英語教育推進事業委員	市内の英語教育推進に関わる小・中学校教員、ALT、英語教育推進教員が出席し、英語教育の現状について協議します。	共通教育センター 池田容子 准教授
山陽小野田市 図書館協議会委員	山口東京理科大学図書館長に図書館協議会委員を委嘱しています。	図書館長 橋本慎二 教授
山陽小野田市 子ども読書活動推進 計画検討委員会委員	山口東京理科大学図書館長に子ども読書活動推進計画検討委員会委員を委嘱しています。	図書館長 橋本慎二 教授

長門市 文化財保護審議会 委員	市の区域内に存するすべての文化財の保存及び 活用に関し、教育委員会の諮問に応じて、必要な 調査及び審議を行う。	共通教育センター 吉村高男 教授
山口県 環境やまぐち推進会 議 次世代自動車利 活用部会委員	次世代自動車の利活用に係る助言・指導を行う。	工学部機械工学科 貴島孝雄 教授
山口県 EV 利活用モニター事 業プロジェクトチー ム	一人乗り電気自動車や電動バイクの普及につい て、事業の進行に係る助言・指導を行う。	工学部機械工学科 貴島孝雄 教授

10. 金融機関との連携活動

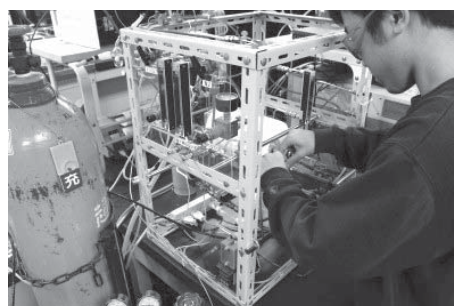
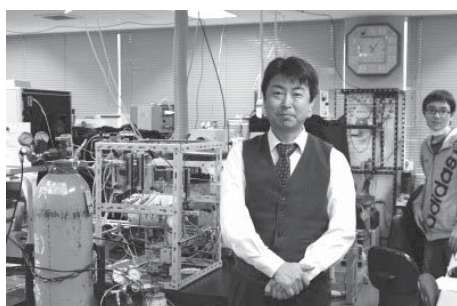
やまぎん地域企業助成

助成金：公益財団法人やまぎん地域企業助成基金

研究者：工学部応用化学科 池上啓太 准教授

テーマ：光触媒と吸着材複合による高効率二酸化炭素変換技術の開発

内 容：本学応用化学科の池上啓太准教授が公益財団法人やまぎん地域企業助成基金から研究費助成を受けました。本研究では、地球温暖化の要因である二酸化炭素 (CO_2) を効率よく吸着回収し、化学反応で有用物質として再生する「人工光合成」のような仕組みの構築及び実用化を目指しています。光を受けることで化学反応を進める光触媒と特殊な吸着材を活用し、太陽光をエネルギー源に、工場などから排出される CO_2 を有効利用することで、有用な化学原料や燃料などを製造する循環型社会へ向けた試みです。光触媒だけでは CO_2 を引き付ける力が弱いので、吸着材上に光触媒を配置して効率よく CO_2 を吸着濃縮し、光触媒反応を進行させるための還元剤として「水素」も利用します。水素は山口県内の利活用が進んでおり、県内資源を最大限に活かしたいという考えです。将来的には、再生可能エネルギーである太陽光と CO_2 と水素だけで化学原料や燃料が製造できるようになることが期待されます。



11. 警察署・消防署との連携

(1) 交通安全ガイダンス

日 時：平成 29 年 4 月 10 日（300 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：山陽小野田警察署、宇部中央自動車学校

内 容：山陽小野田警察署の方と宇部中央自動車学校の先生方を講師に招き「交通安全ガイダンス」を開講しました。警察署の方からは、運転者としての心構えや飲酒運転の危険性、交通ルールを守ることの大切さなどを教えていただき、自動車学校の先生からは、実際に自転車を使って、交通事故が起こる瞬間を再現していただきました。免許こそ必要ありませんが、自転車も車両の仲間です。自転車及び自動車を運転するときは「危険が潜んでいるかもしれない」という意識のもと安全運転を心がけることを教えていただきました。



(2) 交通安全講習会・薬物防止講習会

日 時：平成 29 年 9 月 28 日（50 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：山陽小野田警察署

内 容：山陽小野田警察署から講師を招き「交通安全講習会」と「薬物防止講習会」を開講しました。これは、秋の全国交通安全運動に合わせて、学内の交通安全意識を高めるとともに学生が安全安心な学生生活を送るための指導を目的として開催しました。交通安全講習会では、自転車の通行に関する規則や「ながら運転」の危険性、夜間における反射材の使用等について説明いただきました。また、飲酒が人間の行動にもたらす影響について、飲酒状態を疑似体験できるゴーグルを用いて学ぶことができました。引き続き実施した「薬物防止講習会」では、違法薬物の恐ろしさを学びました。



(3) 防災訓練

日 時：平成 29 年 12 月 7 日（150 名）

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学

講 師：宇部・山陽小野田消防局、山陽小野田市、山口防災工業株式会社

内 容：宇部・山陽小野田消防局、山陽小野田市、山口防災工業株式会社の協力のもと、防災訓練を行いました。はじめに山陽小野田市役所の方から「災害時の自助・共助について」講演いただき、宇部・山陽小野田消防局の指導のもと、実際に煙の充満した部屋で煙から避難する方法を体験しました。その後、消火機器の操作方法を実習し、防火扉・シャッターの開閉確認を行いました。



12. その他の取り組み

(1) 各種委員の応嘱（行政関係以外）

本学における平成 29 年度の各種委員の応嘱の状況は次のとおりです。

氏名	従事先	従事内容
池北雅彦 理事長	千葉県立柏高等学校	スーパーサイエンスハイスクール運営指導協議員
工学部機械工学科 貴島孝雄 教授	一般社団法人山口県安全運転管理者協議会	平成 29 年度安全運転管理者等講習講師
工学部機械工学科 貴島孝雄 教授	一般財団法人地方自治研究機構	「電気自動車中古バッテリーリユースの普及可能性に関する調査研究」委員
工学部機械工学科 結城和久 教授	住友電気工業株式会社	熱マネジメント研究会講師
工学部機械工学科 結城和久 教授	一般社団法人日本機械学会	高密度エレクトロニクス実装における信頼性評価と熱設計に関する研究分科会委員
工学部機械工学科 吉田和司 教授	一般社団法人日本機械学会	柔軟媒体ハンドリング技術応用プロセスに関する調査研究分科会幹事
工学部機械工学科 吉田和司 教授	一般社団法人日本機械学会	「柔軟媒体ハンドリング技術の理論と応用」出版分科会
工学部電気工学科 阿武宏明 教授	日本熱電学会	第 3 期理事
工学部電気工学科 阿武宏明 教授	山口県立下関中等教育学校	学校運営協議会委員
工学部電気工学科 高頭孝毅 教授	公益財団法人やまぐち産業振興財団	理事
工学部電気工学科 大嶋伸明 講師	長岡技術科学大学	学位論文審査に係る審査委員
工学部電気工学科 大嶋伸明 講師	長岡技術科学大学	研究協力者(パルスパワー電源技術に関する研究)
工学部電気工学科 大嶋伸明 講師	技術情報協会	講師(テーマ: 難接着プラスチック)
工学部電気工学科 合田和矢 助教	秋田県立大学	特別講師(「液晶を用いたスマートウィンドウの開発」)
工学部応用化学科 石川敏弘 教授	山口県立宇部高等学校	スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員

氏名	従事先	従事内容
工学部応用化学科 井口眞 教授	公益社団法人日本化学会	代議員
薬学部設置準備室 武田健 教授	学校法人昭和薬科大学	評議員
薬学部設置準備室 武田健 教授	独立行政法人日本学術振興会	特別研究員等審査会専門委員
薬学部設置準備室 武田健 教授	独立行政法人日本学術振興会	卓越研究員候補者選考委員会書 面審査員
薬学部設置準備室 武田健 教授	独立行政法人日本学術振興会	国際事業委員会書面審査員・書面 評価員
薬学部設置準備室 武田健 教授	一般財団法人日本自動車研究所	「自動車排出ガスの健康影響研 究に関する専門委員会」委員
薬学部設置準備室 黒川陽介 教授	一般社団法人日本医療薬学会	代議員
薬学部設置準備室 黒川陽介 教授	一般社団法人日本医療薬学会	会員委員会委員
薬学部設置準備室 黒川陽介 教授	一般社団法人日本医療薬学会	薬物療法専門薬剤師認定制度委 員会委員
共通教育センター 金田和博 教授	公益社団法人日本技術士会	統括本部 応用理学部会講演会 講師
共通教育センター 金田和博 教授	公益社団法人電気化学会	(公社)電気化学会 2017 年秋季 大会実行委員
共通教育センター 金田和博 教授	公益社団法人日本技術士会中国本 部	応用理学部会幹事
共通教育センター 金田和博 教授	理窓技術士会	運営委員会委員
共通教育センター 浅野比 講師	公益社団法人日本分析化学会	第 78 回分析化学討論会実行委員
共通教育センター 浅野比 講師	公益社団法人日本分析化学会	2017 年度「分析化学」編集委員
共通教育センター 浅野比 講師	公益社団法人日本分析化学会	2017 年度中国四国支部幹事

(2) 非常勤講師・役員の応嘱（行政関係以外）

本学における平成 29 年度の非常勤講師・役員の応嘱の状況は次のとおりです。

氏 名	従 事 先	従 事 内 容
工学部機械工学科 永田寅臣 教授	岡山大学	非常勤講師（機械システム工学 セミナー）
工学部機械工学科 貴島孝雄 教授	久留米工業大学	非常勤講師（エネルギーシス テム工学特別講義）
工学部応用化学科 池上啓太 准教授	東京理科大学	客員准教授（研究推進機構総合 研究院）
工学部応用化学科 池上啓太 准教授	大阪大学	招へい准教授（太陽エネルギー 化学研究センター）
共通教育センター 村田貴信 教授	宇部フロンティア大学	非常勤講師（哲学）
共通教育センター 堤千佳子 教授	山口大学	非常勤講師（英語）
共通教育センター 福田廣 教授	山口県立萩看護学校	非常勤講師（心理学）
共通教育センター 福田廣 教授	至誠館大学	非常勤講師（発達心理学）
共通教育センター 福田廣 教授	徳山看護専門学校	非常勤講師（心理学）
共通教育センター 福田廣 教授	山口コ・メディカル学院	非常勤講師（『心理測定法』、『人 間発達学』）
共通教育センター 福田廣 教授	YIC 看護福祉専門学校	非常勤講師（心理学）

13. 地域からの入学

(1) 地域推薦入試

入学者に占める山口県内出身者の比率を高めるために、推薦入試では山口県内の高等学校等出身者を対象とする「地域推薦入試」を採用し、工学部では入学定員の23%、薬学部では入学定員の25%を地域推薦の募集人員に設定しています。

平成30年度の入学者選抜区分と募集人員は以下の表のとおりです。

(単位：人)

学部	入学定員	入学者選抜区分と募集人員					
		地域推薦					一般選抜 その他
		市内枠	県内枠	指定校	計	割合	
工学部	200	13	33	－	46	23.0%	154
薬学部	120	5	20	5	30	25.0%	90
計	320	18	53	5	76	23.8%	244

(2) 入学者に占める山口県出身者

平成30年度の入学者330人のうち、山口県内出身者は89人と、入学者全体の27.0%となりました。

(単位：人)

学部	入学者数	山口県内出身者		山陽小野田市出身者	
		人数	割合	人数	割合
工学部	211	54	25.6%	9	4.3%
薬学部	119	35	29.4%	3	2.5%
計	330	89	27.0%	12	3.6%

(3) 入学者の市内下宿状況

平成30年度入学者330人のうち、下宿者は272人、自宅通学者は58人です。

また、下宿者272人のうち、山陽小野田市内に下宿している者は220人(80.9%)となっています。

(単位：人)

学部	入学者	下宿者		下宿者の内市内居住者	
		人数	割合	人数	割合
工学部	211	175	82.9%	138人	78.9%
薬学部	119	97	81.5%	82人	84.5%
計	330	272	82.4%	220人	80.9%

14. 地域への人材輩出

(1) 就職状況

大学院進学者を除く平成 29 年度の就職者は、工学部が 100 名、大学院（修士課程）が 13 名で、このうち山口県内への就職者は 38 名（就職者の約 34%）となっています。

山口県内の主な就職先は、製造業、情報サービス業です。

（単位：人）

	就職者	山口県内就職者		山陽小野田市内就職者	
		人数	割合	人数	割合
工学部	100	34	34.0%	6	6.0%
大学院 (修士課程)	13	4	30.8%	1	7.7%
計	113	38	33.6%	7	6.2%

※山口県内企業は県内に本社又は事業所がある企業を含む

※山陽小野田市内企業は市内に本社又は事業所がある企業を含む

公立大学法人 山陽小野田市立山口東京理科大学
〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通1-1-1
TEL: 0836-88-3500 (代表)



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学
Sanyo-Onoda City University